

第 1 回財政健全経営検討会議討議経過調書								
参 事	課 長	主 査	担 当	担 当	担 当		日時	
								平成 27 年 5 月 28 日 (木) 14 時 00 分～15 時 35 分
/	/	/	/	/	/	/	場所	
								本庁舎 4 階 庁議室
	/	/	/	/	/	/		
議 題	1 財政健全経営検討会議の進め方について 2 外部評価の進め方について 3 その他							
出 席 者	1 平井 文三 (委員長)		2 奥 真美 (副委員長)		3 遠藤 清美			
	4 岩崎 友子		5 飯島 裕子		6 鷹羽 肅			
	7 栗原 和史		8 鈴木 久佐子 (欠席)		9 水越 泰弘			
	10 齋藤 京子							
	事務局							
	1 企画経営室参事 (土屋)		2 行政管理課長 (小堀)					
<p>1 財政健全経営検討会議の進め方について</p> <p>【委員長】1 財政健全経営検討会議の進め方についてを議題とする。昨年度、平成 26 年度の財政健全経営検討会議は計 6 回の議論を行って市長へ基本的考え方の答申を行うことができた。その後この答申を尊重した上で東久留米市としての方針、財政健全経営に関する基本的考え方が、本年 3 月に策定され、これに基づいてこれから平成 27 年 8 月を目途に実行プランを策定していくことになっている。市側においては 6 月末を目途に実行プランの案を作成しそれを本検討会議に示し検討会議委員の意見等を経て最終的に 8 月までに実行プランを策定していきたいとのことである。したがって本年度の検討会議としては 6 月末を目途に作成される市側の実行プランの案に対し意見等を述べていく形になる。本日はまだ市側の実行プラン案が作成されていない段階にあり、中身の具体的な議論を行うことはできないので、本年度のスケジュールと進め方を確認していきたいと考えている。では詳細の説明について事務局からお願いします。</p> <p>【企画経営室参事】それでは本年度の財政健全経営検討会議の進め方について確認していただきたいと思う。内容については課長から説明させていただく。</p> <p>【行政管理課長】会議資料 1、会議資料 2 を説明。</p> <p>【企画経営室参事】今説明させていただいたように市の方で 6 月末を目途に実行プランの案を作成していきたいと考えている。本検討委員会においてはその実行プラン (案) についてご意見等をいただいた上で 7 月末を目途に修正しそれについてまたこの検討会議の方でご確認をいただくというような形のキャッチボールをしていきたいと思っている。大変短い期間での議論となり申し訳ないが市としては 8 月には実行プランを出していかなければならないという事情があるのでご協力をお願いしたい。</p> <p>【委員長】質疑、ご意見等あればお願いします。</p> <p>【委員】実行プラン案は検討会議に事前にご提示していただけるという理解でよろしいか。当日渡されても話せる内容がないと思う。</p> <p>【企画経営室参事】できれば事前に渡せるようにとは思っている。7 月に入っての第 2 回の会議の日程も本日の会議後に調整させていただきたいと思っているが、市の方の取りまとめ具合もあるので取りまとまった段階でご配布できるようであればご配布させていただきたいと思っている。会議の日程と市の実際のまとめ具合の関係があるができるだけ事前配布できればと思う。</p> <p>【委員長】これから調整する 2 回の検討会議のタイミングによっては、第 2 回検討会議の前に委員が実行</p>								

プラン（案）に目を通す時間がない、あるいは第2回と第3回の間がつまってしまうと市の側が委員の修正案に対する答えを準備する時間がないなど、問題がでてくるので、これから日程調整の段階で議論したい。

【副委員長】確認させていただきたいのだが、実行プランシートを今所管課で作ってもらっていることだが、綴じてまとめたものを実行プラン（案）としてあげてくるというイメージでよいか。

【行政管理課長】レイアウトを単に綴じるだけではなく、基本方針の中で書かれた他の取組み、例えば財政調整基金の捉え方などを、どういう構成にするかはあるが、レイアウトとは別のページに、実行プランの中には盛り込む必要があるだろうと考えている。

【副委員長】資料2のシートについてだが、個別項目の一番下の効果に金額が入っている。説明でアウトカムとおっしゃったが、アウトカムとしての金額はどう理解したらよいか。

【行政管理課長】ここに記載するのは、削減額という位置づけで考えている。

【委員長】28年度前の現状額があって、そこから平成30年度であれば200万円減、ということか。

【企画経営室参事】さきほど課長から説明させていただいたが、すべての項目で効果予測が出せるかどうかという課題もあるので、予測がつく部分については効果予測として削減額という形で記載できるものは記載していきたいと考えている。

【副委員長】効果予測についても金額だけでわかるのがいいのかという議論はまた別途あると思う。

【企画経営室参事】数字で表すのは難しいというところはある。

【委員】金額だけということでもない。お金は減ったけれどサービスの低下もあるかもしれない。

【委員長】効果の環境負荷の例で言えば、サンプルとして示されている「PFIを活用した防犯灯LED化」ならば、蛍光灯の防犯灯の時代と比べてCO2の削減がどうであるとか、あるいは一定のルクス以上でカバーされる路地がどうなるとか、そういうものがアウトカムかと思う。

【企画経営室参事】今のアクションプランなど、これまでの行革の取組みの中で効果予測額また実績額という形で示してきたという経緯もあるので、それを引き継ぐ形で数字で表せるものは表していこうということで載せさせていただいている。今委員長、副委員長が述べられたような違う意味での効果についても、検証できる部分については検証したうえで載せられるものは載せていくことも必要だと思うので、事務局で再度検討させていただく。

【委員長】実行プラン等について他に何かあるか。

【委員】経費の削減も大事なことだと思うが、歳入増につながることも実行プランの中で出させていただきたい。

【委員長】財政健全経営に係る基本的考え方の議論をするときに、歳入増方策についてはかなり詳細な議論をさせていただいたと思うので、実行プランにおいても表記していただければと思う。

【委員】市民意見交換会後のアクションは何かあるのか。

【企画経営室参事】今後実際に我々の計画づくりの中で反映させていただければと思っている。

【委員長】他に何かあるか。もしまた何かご意見あれば後ほどまたお願いしたい。

2 外部評価の進め方について

【委員長】では、続いて2外部評価の進め方についてを議題とする。

【企画経営室参事】本年度の外部評価の進め方について、検討委員会の方でも確認をしていただきたいので、内容について課長から説明させていただく。

【行政管理課長】会議資料3をご覧ください。会議資料3を説明。

【企画経営室参事】外部評価については昨年度は本検討会議より学識経験者2名、公募市民委員2名、団体推薦の委員1名ということで行っていたが、平成27年度においては学識経験者及び公募市民の委員4名にお願いすることとさせていただいたのでよろしくお願ひしたい。

【委員長】ただいま事務局から説明があったように、本年度の外部評価は委員長の私、副委員長の奥委員、公募市民委員の斎藤委員、水越委員の4名で実施するのでよろしくお願ひ申し上げる。

【行政管理課長】続いて会議資料4をご覧ください。会議資料4を説明。

【委員長】質疑、ご意見等あればご自由にお願ひする。

【委員】資料4の1趣旨のところに「この試行実施で具現化した手続き上の課題を踏まえ、行政評価制度の中に外部評価を位置付けながら再構築していく」と書かれている。今回去年と多少やり方が変わっていると思うが、これまではどういうところが課題だったので今回はこうするというのを具体的に説明していただきたい。

【行政管理課長】前段の部分の「具現化した手続き上の課題」というところで、昨年度は事業の選定を行政側主導ではなく会議の方に委ねたため、選定の基準が不明確な部分があったという話を伺っている。財政健全経営に関する基本方針の中にも書いてあるが、今年度においては行政側から提起した上で考え方もこの段階でお示ししていくというように、やり方を若干変えさせていただいている。後段の委員については参事から願います。

【企画経営室参事】昨年の委員選任では5名という枠をとり、学識経験者と公募市民委員に加えもう一方ということで会議の中で選任していただいたが、事務事業を客観的に評価していくというところで改めて市内部で検討させていただいたが、団体推薦というのは様々な意味でご意見しづらい部分があるのではということもあったので、今回については学識経験者と公募市民委員の方でということに見直しをさせていただいた。付け加えさせていただくが、市の中の行政評価についても、後ほどお話しさせていただく予定だが、事務事業評価表の見直しもさせていただき、市内部の評価の過程についても一部見直しをするなど、財政健全経営に関する基本方針の中でも示しているの、それに合わせる形で見直しを図ってきているとご理解いただければと思う。

【委員】別紙の外部評価対象事務事業一覧ということで5件あるが、行財政改革推進本部での議論等を踏まえて対象事業を示したということだがどういった議論があってこれが選ばれたのか。

【行政管理課長】この間行政管理課が事務局となる理事者を含めた市の幹部職員とのレクチャーであったり、あるいは企画部門が事務局となって開催する理事者との課題協議がこの1か月ほどの間に過密なスケジュールの中で行われてきた経緯があり、行政管理課としては常に実行プランの中身や外部評価に付すべき事業を念頭におきながらそういった協議に出てきたので、最終的にそういった議論の経過を踏まえていくつか事業を挙げさせていただく流れになった。

【委員長】簡単に外部評価対象事業の選定理由を伺いたい。

【行政管理課長】財政健全経営検討会議資料4別紙の内容を以て口頭で説明。

【委員長】他にご質問ご意見等あるか。

【副委員長】資料4の別紙に記載されている事業については詳細評価を行うということで理解したが、あわせて資料4の「2 外部評価の流れ」の下に※印で「事務事業評価表を外部評価委員に引き渡し全事務事業を対象に外部評価を行う。」と書いてあり資料6を見ると全ての事業の一番右に外部評価の欄があるがどうということか。

【行政管理課長】記載については配慮がなく申し訳ないが、事務事業評価表の中でも特にお目通しいたきたいリストとして、補助・給付事業をのぞいて自主的事业又は努力義務的事业であってかつ近隣市で取り組みがない事業を抽出したものがある。

【企画経営室参事】全てコメントを入れていただくわけではなく必要に応じてコメントを入れていただくと考えている。

【委員長】逆に言えば、「聖域はない」という事務局の意思の表れとポジティブに解釈させていただいてもよろしいか。

【企画経営室参事】私どもの方から制限を設ける考えはない。ただ、今副委員長が述べられたように全事務事業というのは作業として無理があるかと思っている。必要に応じて委員の方のご判断にお任せしたいと思っている。

【委員】昨年の外部評価の結果がホームページに掲載されているが、何順になっているのか。

【行政管理課長】事務事業番号順になっているかと思うが早速対応させていただく。

【委員】外部評価は市の中でそもそもどういう位置づけになっているのか。

【企画経営室参事】もともと外部評価は、それ以前の取組み、例えば事業仕分け等様々な手法がとられてきた過程があると思う。現在の外部評価の基本的な考え方については、市として事務事業評価表を作り改善の方向性を出していくということをやっているが、その中で財政健全経営に関する基本方針としてこの辺を充実させて事務改善につなげていくという形となっている。行政内部としても評価させていただくが、この部分について外部の視点を入れたうえで事務改善を図る必要があるだろうという考え方から進めさせていただいている。

【委員】実際、今回対象の5事業について外部評価で議論したことがどう行財政改革につながっていくのか。

【企画経営室参事】最終的には全庁評価会議で評価結果を踏まえて事務事業の方向性を決めていく。

【委員】今年においてこの5事業に絞られる流れがわからない。

【企画経営室参事】以前から市は事務事業評価制度に取り組んできているところであるが、最終的に行財

政改革推進本部で全事務事業に対する方向性を決定していくというシステムになっている。その間に外部評価を入れていく形で考えている。全事務事業の中からとりわけ詳細に評価していただきたいものを今回は行政側からご提案させていただいたということでご理解いただきたい。市としては毎年度全事務事業について一定の評価をしている。その中からとりわけ外部評価で詳細な評価をしていただくものとして5事業あげているということである。

3 その他

【委員長】3その他を議題とする。事務局から説明をお願いします。

【行政管理課長】資料5、資料6を説明。

【委員長】質問等あるか。

【委員】事務事業評価表が去年と変わったということだが、どう変えたのか。

【行政管理課長】行政評価制度を導入してかなりの歳月が経過している中であって、行政評価のツールとしての機能というよりは説明責任のための道具になっているのではないかという話もある。財政健全経営に関する基本方針の中でも「行財政改革のツールとして活用するために」という文言があったので、特にどういった視点でといった取組みがしやすいように、見直しを図った。事務事業評価表を以て、見直し部分を説明。

【企画経営室参事】事務事業評価表は少しずつ今までも見直しはしてきている。今回も見直しをしてまだまだ課題があると感じているので今後とも見直しを進めていければと考えている。

【委員】成果指標は、何を持ってくるかで全然違ってしまう。例えば広報の市民に配った数は100%というのは当たり前だと思う。

【企画経営室参事】導入された当初成果指標の設定の仕方にどの部署も悩んだ。いったん作られて人が異動して成果指標がなぜこうなっているのか把握できなくなっているところもあると思う。どこまで手をつけられるかというのはあるができる限り改善していければと思う。

【委員長】成果指標は、毎年とれるような事業と、市民アンケートのような、コストはかかるけれど何年かに一度とれるというタイプのものもあるので、原課に不公平感がでず市民にもわかるような形でうまく使えるといいと思う。

【委員長】ありがとうございました。これをもって平成27年度第1回東久留米市財政健全経営検討会議を終了する。

—以上—